

## シリーズ1、病虫害等による庭木の被害とその対策(7)

### —ナラ類の集団枯損被害の紹介—

富山県林業技術センター林業試験場  
中山間地域資源課長 西村 正史

昨年(2005年)、県内の里山林では初夏から秋にかけて季節はずれの「紅葉」が出現したことは、新聞紙上で大々的に報道されましたので、ご記憶の方が多くかと思えます。この「紅葉」は、カシノナガキクイムシという5mm程度の小さな虫によって引き起こされます。「紅葉」した樹木(主にミズナラとコナラ)は秋の本来の紅葉とは異なり枯れてしまいますので、里山林の景観が著しく低下し、将来的には水土保持機能等の低下などが心配されています。この「紅葉」は、主に日本海側の地域で多発しており、ナラ類の集団枯損と呼ばれています。本県では2002年7月に標高350m付近に位置する南砺市(旧福光町)才川七の広葉樹林内で初めて確認されました。昨年には、被害程度は異なるものの、県下のほぼ全域に蔓延したことが確認されています。ナラ類だけでなくカシ類にも被害が発生しますので、平野部などの公園、寺社の境内などでも、時ならぬ「紅葉」が出現すると予測されます。

#### 被害発生の仕組み

カシノナガキクイムシは養菌性キクイムシと云って、樹木に穿入しても材を加害することではなく、自ら持ち込んだ菌を栽培して、その菌を食べて生活すると云う特徴を持っています。ところが、残念なことにこの菌の仲間の中にミズナラやコナラの「紅葉」を引き起こす原因となる菌が含まれているのです。この菌は、カシノナガキクイムシが穿入した坑道内で繁殖し周囲の組織に拡大して、水の通り道である導管を破壊します。幹周囲の導管が破壊されると、水が上がらなくなり、樹冠全体が萎凋し始め、その後赤くなって枯れます。カシノナガキクイムシの加害をうけたからと云って、すべての木

が枯れるわけではありません。ミズナラは半分程度が、コナラは1割程度が、それぞれ枯れることが知られています。

#### 被害の確認方法

初夏から秋にかけて、里山林で季節はずれの「紅葉」が出現した場合には、「紅葉」した立木に近づき、それがミズナラであるかコナラであるかを見極めます。そうであれば、さらに近づいて、根元付近を観察します。幹の表面や根元付近の地面上にうどん粉状の白あるいは少し褐色がかかった粉があり(写真)、しかも2mm程度の小さな穴が沢山あれば、ナラ類の集団枯損であると判断できます。

#### 防除法

マツクイムシの防除法であるNC S剤を用いた薫蒸方法が有効ですが、労力がかかるという欠点があります。現在、より簡易な方法として、フェロモンを活用してカシノナガキクイムシを一網打尽に捕殺しようとする防除法の開発が進められています。



写真 被害を受けたミズナラ